



@幸せな贈り物

現代版バベルの塔事件

成功は一生、 墜落は瞬間



欲がはらめば...

一夜で3,000ドル(250万円)の特級ホテルで生活していたのに、ホテル女性従業員を強姦未遂疑惑で政治犯以外の犯罪者が入るアメリカ、ニューヨークのライカーズ島の独房に収容された**国際通貨基金IMFのドミニク・ストロス=カーン(Dominique Strauss-Kahn) 総裁**、一日で天国から地獄に落ちた彼は、結局、IMF総裁の職を辞退しました。ニューヨーク警察スポークスマンが発表したことでは、客室が空いているので清掃してくださいという指示を受けて、被害者の女性が客室の中に入ったのですが、突然に浴室からストロス=カーン総裁が裸のまま走って出てきて、この女性を寝室に引っ張っていった性的な暴行をしようとしたということです。検察は1級性暴行2件と、1級性暴行未遂、1級セクハラ、2級不法拘禁、強制接触、3級セクハラ各1件など、総7件の疑惑で彼を起訴したのですが、もし1級性暴行疑惑が立証されれば、彼は最高25年の懲役刑を受けると言われています。一方、映画「ターミネーター」で広く知られ、1986年結婚して4人の子どもが生まれた**前アメリカ、カリフォルニア州知事アーノルド・シュワルツェネッガー氏(Arnold Schwarzenegger)**が家政婦との婚外情事で産まれた子どもまでいるという事実があらわれて、アメリカ社会が衝撃を受けました。婚外情事の相手である家政婦は、今年50歳のメキシコ系アメリカ人で、20

年間、週1,200ドルずつをもらってシュワルツェネッガー一家の清掃、洗濯、料理などを引き受けていたということです。**完全犯罪を狙ったコンピュータ専門家カン教授(53歳)**が失踪して約50日後に洛東江(ナクドンガン)の川辺で亡くなって発見された大学教授の妻が、夫のカン・某容疑者(53歳)と内縁の女性チェ容疑者(50歳)の計画的な犯行によって殺害されたことが明らかになりました。国内名門大を卒業したカン容疑者は、コンピュータ犯罪専門家で、検警サイバー犯罪(Cyber crime)専門委員と韓国コンピュータ犯罪研究学会の会長をするほどエリートコースを歩みながら名声を積み重ねた履歴が立派な教授でした。カン教授は、3度の結婚と離婚事実が明らかにされ、夫婦間の葛藤の谷が深くなって内縁の女性チェ容疑者(50歳)と共謀して、夫人のパクさんを殺害することに決心したあと、緻密に犯行を準備して死体がない完全犯罪を試みました。しかし、カン容疑者は、潮流に押されて浮び上がった死体と科学捜査の結果、発見された証拠を見せられて、警察の前に白旗を掲げてしまいました。被疑者の知人たちは、大学教授カン容疑者を示して「物欲がない人だ」「性格も問題がなかった」と言って、意外だという反応を見せたのですが、被害者の弟は「お金のために、私の姉と結婚した」と衝撃的な告白をしました。教授が訪ねて行った法律諮問委員は「カンさ

んが、奥さんと離婚をするのにアパート、自動車など5億ウォンを自分の財産にする方法を知らせてくれと言ったので、びっくりして断った」と言いました。引き続きカン容疑者は、妻の前の夫を訪ねて行って「妻と姦通をすれば2千万ウォンを与える」と言ったのですが、これさえ失敗しました。オリオングループ（Orion Group）ダム・チョルゴン会長の墜落、ダム会長は韓国で生まれた華僑3世で、アメリカ留学を経て1980年東洋セメント代理で「妻の実家の会社」と縁を結んだ後、46歳の時である2001年東洋グループからオリオングループの系列が分離したときに会長に就任しました。隠遁の経営者と呼ばれたダム会長が160億ウォン台の秘密資金を作って私的に流用した疑惑で検察に拘束されました。検察は、彼が夫人および側近と共謀して、偽装系列会社役員に月給や退職金を支給したように計画するなどの方法で、会社のお金を横領したと明らかにしたのですが、「財閥家の婿」の中で経営能力がきわだっているという評があったダム会長が公私を区分できなくて会社のお金をこずかいのように思って、一瞬にして墜落したことは残念なことに違いありません。



人間の欲望、 どのように解決 するのでしょうか

神様のように高く見られようとする人間の絶え間ない欲望は、かたい都市を作り上げて散らされないようにしようと、天を

突き刺すような塔を築きました。これは神様がなくても自分でよく生きることができるといふ人間の力を誇示しようとしたバベルの塔の事件です。しかし、神様を拒否して敵対する人間の野望と欲の結果は、結局、ちりぢりに崩れ落ちました。ぼつんと場所だけ残ったバベルの塔の行方のように、人間の限りない欲望と欲のあとには、むなしさがたましいいっばいになって、自分はもちろん、隣まで破壊する災いを呼び起こします。創造主である神様と「ともに」という存在で造られた人間が、サタンのささやきにだまされて、神様を離れた後、3つの情欲が訪ねてきました。「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢…」（ヨハネの手紙第一2:16）この時から人間は欲望の奴

隷になって、生涯の誠意をこめた塔を、一日で自ら倒す愚かな人間に転落するようになったのです。ですから、人間の根本が回復しなければ、欲望がもたらす苦しみと不幸も終わりません。はじめから魚は水で生きて、木は地で生きるように創造されました。同じように、人間は神様とともに生きるように創造されました。この創造の原理を離れては幸せになれないのです。しかし、人間はサタン（悪魔）の誘惑を受けて、神様を離れるようになって、その結果、人間の運命はサタンに左右されて、罪と欲望がもたらす苦しみの中に陥るようになったのです。分からないむなしさと不安が訪ねてきて、幸せを求めてもがくのに、欲望の沼に落ちて繰り返す墜落と犯罪の中でさまよって、結局死後にはさばきを受けて、永遠な地獄に落ちるようになりました。善行や教育、哲学、宗教は良いのですが、このような人間の本質的な問題を解決することはできません。この世には、サタンをなくせる英雄はいません。さらには、人間の罪を解決できる義人もいなくて、永遠ないのちを回復させてくれる人もいません。これは、霊的な問題なので、どんなものによっても解決できないのです。それで、神様は人間が解決できない原罪、原罪の結果で訪ねてきた欲望ののろいと災い、目に見えないサタンの働きを解決するキリスト（Christ）を送って下さることを約束してくださいました。人間が神様に会う道になってくださり（ヨハネの福音書14:6）すべての罪とのろい、生年月日による運命（四柱推命）から解放される道になってくださって（ローマ人への手紙8:2）、サタン（悪魔）のしわざを滅ぼして、その手に捕まって奴隷のようになっている者たちを解放する道になってくださいました（ヨハネの手紙第一3:8、ヘブル人への手紙2:14~15）。

このキリストがまさにイエス様です。だれでも今この時間、イエス・キリストを私の救い主として信じて口で告白して受け入れる瞬間、神様の子どもになる祝福、本来の人間の祝福を回復するようになるのです。イエス・キリスト、この方が私の人生の主人になるとき、はじめてまことの満足、まことの幸せがあなたの人生の中に場所を占めるようになるのです。

欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。

（ヤコブの手紙1:15）

何かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというわけではありません。私たちの資格は神からのものです。（コリント人への手紙第二5:3）

唯一の道

どうすれば、神様に会うことができるのでしょうか？

まず、理解をしなければならないことは、神様は霊ですから、肉の目では見るできないということです。それで、人々は神様がないと思ったりもします。ところで、はっきりとよく見てみれば、心、精神、たましいなど、重要なものは目に見えないのですが、確かに存在しています。ある青年が牧師先生に相談することがあると言って訪ねてきました。青年が尋ねるのに「神様はどこにいるのですか。神様がいるなら見せてください。そうすれば、命をかけて本当に信じます。そして、神様がいるなら、住所を教えてください」と話しました。牧師先生が、突然な質問に返事ができずにいたとき、そばにいた長老が自分が説明をすると言いました。そして、長老は青年の前に今、何があるのかと尋ねました。すると、青年は木があると話しました。長老は「いったい木がどこにあるのかと尋ねました。長老は、もう一度、青年の前にどんなものがあるのかと尋ねました。青年は花壇と石があると話しました。今回も、長老は青年の前に花壇と石がどこにあるかと反問しました。青年は、確かにあるのになんと言うので、ますます腹を立てました。そのとき、長老が答えて「すみません。私は同じ人のように見えても、視覚障害者だから見ることはできません。私は牧師先生のお宅にくる時も、見えないから杖をついて来ました。同じように、青年は霊的な目がないから神様を信じることはできないのです」と話しました。それで、神様は私たちに神様に会う道を開いてくださったのです。霊である神様が人間を救おうと、人となって来られたのです。もし神様が動物を救い出そうとされたらすれば、動物の形で来られたはずですが、人を救い出そうと人となって来られたのです。しかし、その方は罪がなくて、その霊は神様です。それで、救い主キリストになられたのです。これが聖書の最も重要な約束です。人間を救うために、人となって来られた方が、まさにイエス・キリストです。イエス様は聖書の約束どおり人間を救うために、ご自分が人間の罪を担って、十字架であがないの血を流して死んでくださいました。そして、罪と死とサタンの権威に勝って復活されました。復活によって、イエス様自身が、神様に会う道で、キリストであることを明らかにされたのです。この事実を信じて、イエス様を私の救い主、私の神様として受け入れさえすれば、だれでも神様の子どもになる特権が与えられます。聖霊で永遠に私たちの中にもにおられ、聖霊で導いて、聖霊で満たすことを通じて、私と世の中とサタンに勝てるイエス・キリストの御名の権威を味わえるようにしてくださいませ。そして、天国の国籍をくださって、すべての罪と死、サタンの権威から永遠に解放されて、神の国の祝福を味わうようになります。これが神様が約束された救いの祝福です。

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。(ヨハネの福音書 14:6)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。

私は罪人です。

今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。

いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、

イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

どのように 愛しますか？



与える愛

愛とは人間が持った最も良い感情の一つだ。単独になれない存在である人間に、愛はすべてのものをつなげ綱であり、機会だ。自分の所有を分けてあげる自由を持った人が、愛の機会を得る。愛は自ら持っていることでは説明できない。与えるものがある父母の愛のように与えなければならず、与えてまた与えるのが愛だ。

受ける愛

愛とは空気が波動を受け入れて音を作り出すように、与える愛を受け取るとき、愛の価値が確認される。鳴らない鐘は単なる金属の塊にすぎないが、外部の衝撃を受け入れて音を鳴らすとき、鐘はその価値をあらわす。愛はそれを持った者が伝えるのを受け入れるとき、いよいよ完成される愛になる。子どもたちは親から受ける愛を持っている。

する愛

愛とは存在だけでは完全でない。自分の愛で満足したら、それは欲であって愛ではない。しかし、私に愛がないならば、それはより一層残念なことだ。愛は存在するが目には見えない。愛は愛する関係の中で愛を表わす。親の元から離れなければならない子どもたちが独立した存在の事実性を確認する時間のように、する愛は青春の熟していく実だ。

味わう愛

愛とは空気のように目には見えないが、いつも人間と最も近いところにある。鼻から呼吸が途切れるのが死であるように、愛が途切れた人はみじめな存在だ。人間に愛があることを知らせた創造主義の知恵は、人間の真剣だが粗雑な愛の中で悟らなければならぬ愛の価値を知らせる。今は苦しみの中にいるが、本来人間は愛される対象として創造された。神様が愛した人間なので、巨大な宇宙を、愛しておられる人間のその手にすべて任せられた。しかし、人間はその愛を分からず、結局、神様の愛を離れたが、神様が愛を取り戻す方法もまた愛だった。人間は言葉で神様の愛を簡単に捨てたが、神様はご自分の体で捨てられた愛を困難の中で取り戻された。愛とは、神様が私の人生に入って来られ私が見つけたのがまことの愛であることを確認することだ。

自分の誤りを認めることによって、自らの場は確保するというが、これが人類全体に及ぼす苦しみならば対策はない。ただ全能者の無限の中で愛を見つけるとき、私たちの過去は、はじめて愛で立てられる。このような神様の愛を福音と言う。私の苦しみを喜びに変え、私の苦痛を悲しみに抱きしめたその幸いを私たちは愛という。したがって、私たちは問題と苦しみを捨てて、愛を受け入れる。そして、愛を味わいさえすればよいのだ。味わう愛の中で、人間は人間であることを確認するようになって、そのときにこそ、まことの愛の意味を知るようになる。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

*相談したい方はこちらまでどうぞ